
プロジェクトウォーリア

赤飯おにぎり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プロジェクトウォーリア

【Nコード】

N34780

【作者名】

赤飯おにぎり

【あらすじ】

遙か未来、一度地球が核戦争が原因の温暖化で全ての大陸が沈み、その後全ての国の協力により多少不具合は発見されたもののもう一度地球を復活させた。だが、その核の原因が、それとも新たな生命か、復活させた地球には人を襲う生物が爆破圧的に増えた。さらに、新種のウイルスも発見され、人類が住むには多少適さない環境になってしまった。

だが祖国や故郷を尊びまた地球に戻る人や新生物の研究、退治などのさまざまな目的を持ち地球に訪れた。

そんな中、政府は試験、裁判、政治などは地球で行うと言いつつた。そして政府の動きもあり対新生物用の部隊も結成された。その名は【プロジェクトウォーリア】簡単に言ってしまうと、軍事学校である。

そして生徒が戦場に回される。学費は必要ないが、いつ死ぬかは分からない。

特別な志を持ったものしかいない、特別な学校である。

そしてこれは一人の【ウォーリア】の物語。

第一話（前書き）

どうも赤飯おにぎりです。

このたびはプロジェクトウォーリアを回覧いただき有難うございます。

ジャンルは冒険と指摘いたしましたか、ストーリー上もしかしたら学園ものになる確率があるのでご注意ください。

作者は中一ですので、そこも踏まえたうえでご覧ください^^

第一話

ドオオン　すぐ近くから爆発音が聞こえる。ここは旧日本、おそらく貴方達から見れば遠い未来の話だろう。今では兵器革命がおきていて兵器の質が格段に上がっている。

ヒュウウウ・・　何かが落ちる音が聞こえるふと上空を見るとそこには小型自由落下爆弾がまさに投下されたいた。・・マズイ、非常にまずい。

恐れをまったく見せない敵。何か裏があるのか？いや、そんなことを気にしてる暇は無い。

相手はテロリストで、こちらは民兵。正規軍が動きを見せない今勝率は非常に低い。

ドゴオオン

「うわあああつー！」

「ハハハハッ雑魚どもが！」

チュチュチュチュチュン

乾いた音を出して俺が隠れている家の残骸に弾が当たった。俺の武器はハンドガンだけ・・勝機は無い。

「諦めて出て来な雑魚が」

テロリスト達が銃をくるくると回しながら近づいて来る。くそっ・

「困っているね〜お兄さん？」

「！？」

声につられて空を見るとそこには二丁のサブマシンガンを持った金髪の男が宙を飛んでいる。

「誰だお前は！」

テロリスト達の怒鳴り声が聞こえるが、耳にはあまり入ってこない。

「イヤッフウ〜！」

ガガガガッ

「ぐおおっ!!」

テロリスト達が次々倒れていく。でも何か変だった。

「!!」

倒されたはずのテロリストが何事も無かったかのように立ち上がる
そして、弾が当たった場所は 010011100・・・ と謎の
文字列が並んでいる。

「ヒューウトロイとはやってくれるねえ」

と言いながら銃を交換する男。トロイ・・・？そんなことを考える
暇も無く銃を取り出す男。

「オツケー！魔砲起動オールグリーン！発射準備良し！」

と言い、さつきとは多少見た目が異なる二丁のサブマシンガンを取
り出す。

「いくぜええっ!!」

弾がさつきとは違う見るからに実弾ではない。あれは・・・レーザ
ー？

「・・・!!」

さつきのテロリスト・・・いや、トロイと呼ばれたものがその銃を
凝視する。あの銃はいつたい・・・？

「!!」

なんと言ってるか分からないが、トロイ達が叫びだす。そして、男
を狙って銃を乱射する。

「うおおあぶねえ！」

男は今の状況と合わないしゃべり方をしている。しかも、背中につ
いているジェットパックで空を飛び敵の銃弾をすべて回避している。
「フツ・・・俺としたことが・・・この程度で取り乱すとはな・・・
まあいい。これでフィニッシュだ！」

男が撃った弾がトロイたちに次々と突き刺さる。

「・・・!!」

爆発音とともにトロイたちが謎の数字列を出して消えていく。

「ミッシェンコンプリート、だな。」

「まったく・・・お前と言うやつは・・・」

男が銃をしまうと同時に呆れた素振りを見せながら一人の女性が空から降りてくる。

「もう少し任務に緊張感をだな・・・」

するとここにきずいたようで、こちらに女性が向かってくる。

「うん？君は・・・民間の方ですか？」

「は・・・はい」

「ふむ・・・そうか。学校は・・・聞くまでも無いな」

「ヒュ」さすがレイさん、初対面相手にも相変わらずですなあ。」

「だまれログ！話の邪魔をするな！」

「はいはい」と

レイ・・・さんと呼ばれた女性と・・・ログ・・・？さんと呼ばれた人が話を進めている。話し方からして、おそらくレイさんの方が上の扱いなんだろう。

「おっと・・・すまなかったな。で、君の名は？」

「あ、高松四郎です。」

「うむ、いい返事だ。気に入った。」

「ちよつと、高松さんっていったけ？」

ログと呼ばれていた男性が小声で耳打ちしてくる。

「あの人レイさんって言うんだけど・・・実は、三十いってるんだよ・・・」

「まじですか・・・それは・・・」

「ふむ、グレネードはこのポーチだったか」

「「すいませんでした」」

初対面の人に土下座するのは初めてだ。

「まあ・・・いい・・・」

やっとグレネードのピンを閉めてくれた。多少白い煙が出たから、あれ以上ピンが抜けていると助かったのにお釈迦になってしまったところだった・・・。

「ところで高松」

「はい」

「年は？」

「15です」

「十五か……」

「はい」

「では我が軍に入らないか？安心しろ。普通の学問も受けることが出来る。多少訓練もあるが、慣れれば大丈夫だ」

「あれが慣れるのレベルかよ……新入生が吐いてるところを何回見たことやらあつっ！？」

「どうだ？入るか？」

一秒もせずに的確に鳩尾に拳を繰り出す女性と一瞬にして後ろのコンクリートの壁に激突する職業軍人というとても珍しい光景を見れた。ありがとうログさん。あなたの死は無駄にしない……！

「ちなみに我が軍は狙撃者・特攻兵・重装備兵がある。まあ、いつても入りたての初心者なら特攻兵にしかないだろうな……」

「は、はあ……」

「さあ、入るか？入らないか？それを決めるのは誰でもないお前だ！」

「え、ええつと……」

「レイさん……」

「どうした？ログ」

「まだ親に挨拶とか相談とかもあるでしょうからしばらく待つてあげてくださいよ。俺の頃もそうでしたが……」

「む、これはすまない。高松、親は？」

入ることを前提に話を進ませられてる。これは危ない

「親は日本にいるはずです」

「日本？お前は一人暮らしか？」

「はい。向こうに学校が無かったんで小学生から一人暮らしでした……」

「ふむ……そういえば日本は紛争中だったな……それにしても、

「？」

「小学生から一人暮らしとはすばらしい！さぞかし根性もあるだろう。それに孤独にも強そうだ！ぜひ我が軍に……！」

ああ、なんか既に入るしか選択肢が見つからない……！

「……一応親に相談します……」

「そうか、では日本までの交通費を渡そう。とりあえず、このIDカードを見せれば空港や料理はタダになる。正確には我が軍が負担するのだがな。さあ、空港まで送っていこう」

「……ありがとうございます」

「ハッハッハ！新人とは楽しみだ！」

「な、すごい人だろう？」

「ログさんもあんなふうに入れさせられたんですか？」

「ああ……」

「まじっすか……」

そして、装甲車にのり、空港に向かった。

（……軍人か……）

「そうだ、入学式は四月だから四月まで家にいるといい。その間にいろいろと準備しておけ。」

「はい」

四月か……あと三ヶ月あるな

「そうだ、こいつを渡しておく」

「これは？」

「ぬう……まあ、お前の個人情報を書いて来い。それが無きや何も出来んからな」

「はい」

紙を見る。そして、

高松四郎・入学希望

第一話（後書き）

最後まで見てくれた方、本当に有難うございますm（ー）（ー）m
一様それなりに頑張りましたがやはりレベルが低い・・・

なにか指摘、及びアドバイスがあれば言って下さいwたぶん気がつかないんでw

ちなみに、アオーバでも小説を書いていますので気に入ったら見て
くださいw

アメブロの方は若干ストーリーに差があったりするのでご注意ください。
名前は赤飯おにぎりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3478o/>

プロジェクトウォーリア

2010年10月16日21時36分発行